

幼児が豊かな言葉で表現する援助の工夫

—自分の思いや考え、感動体験を話す活動を通して—

糸満市立高嶺幼稚園教諭 長 嶺 初 美

内容要約

豊かな言葉で表現するために、自分の思いや考え、感動体験を話し、聞くこと等伝え合う喜びを味わうことが大切であると考え援助の工夫をしてきた。実践では、自分なりの言葉で表現する意欲や態度に共感し「生活発表会に向けて」の活動を通して、幼児理解を深め、見通しをもった環境構成や教師の援助の工夫を試みた。

幼児一人一人が、感動体験をたくさん味わえる保育の展開を図る工夫をしたことで、豊かな言葉で表現できる意欲や態度を育てることができた。

【キーワード】豊かな言葉の獲得 感動体験 幼児理解 教師の援助

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の全体構想図	2
IV	研究内容	3
1	豊かな言葉と教師のかかわり	3
2	自分の思いや考え、感動体験を話す援助の工夫	4
3	豊かな言葉を獲得する年間指導計画	4
V	保育実践	6
1	活動名	6
2	活動設定の理由	6
3	保育の目標	6
4	指導計画	7
5	検証保育 活動の展開	8
6	保育の省察	9
7	幼児の変容	9
VI	研究の成果と今後の課題	10

幼児が豊かな言葉で表現する援助の工夫

—自分の思いや考え、感動体験を話す活動を通して—

糸満市立高嶺幼稚園教諭 長 嶺 初 美

I テーマ設定の理由

近年の著しい社会状況の変化に伴い、幼児の生活環境も大きく変化している。少子化、核家族化、情報化社会の中で、ビデオやテレビゲーム等室内で遊ぶことが増え、身体を使って遊ぶ直接体験が乏しく、感情表現が貧弱になっているように思う。また、親の意識への影響も大きく、文字や数の読み書きの知的教育に関心が高まっている反面、あいさつや片付け等基本的生活習慣の自立への意識が弱くなり、幼児が何も言わなくても困らない過保護の状況がある。そのため、人とのかかわり、コミュニケーションのあり方や言葉環境も変わり、幼児が話す言葉にも影響を与えている。

幼稚園教育の目標に「日常生活の中で言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うようにすること」があげられている。それは、幼稚園の生活の中で、幼児が心を動かして表現したくなるような体験を得られるようにすることや、幼児の話をていねいに聞いたり、絵本や物語を読む機会を多くするなど、日頃の言葉環境を豊かなものにしていくことが重視されているからである。

本園の学級の幼児は、おとなしく、素直で、話は静かに聞いている。しかし、モジモジして自分の思っていることが話せなかったり、考えないですぐ「わからん」「いいさ」と言ったり、自己主張のはっきりしている幼児におされて黙ってしまう姿が見られる。また、物の貸し借りや順番待ち、グループ作り等でトラブルになり、乱暴な態度をとる幼児もいる。そのような幼児は、言葉で自分の思いや考えを相手に伝えることが不十分で、人とのかかわり、感動体験が少ないことが原因であると考え。自分の思いや考え、感じたこと等を伝えるには、豊かな言葉で表現することが必要であり、そのことによって、考えもより確かなものとなってくる。

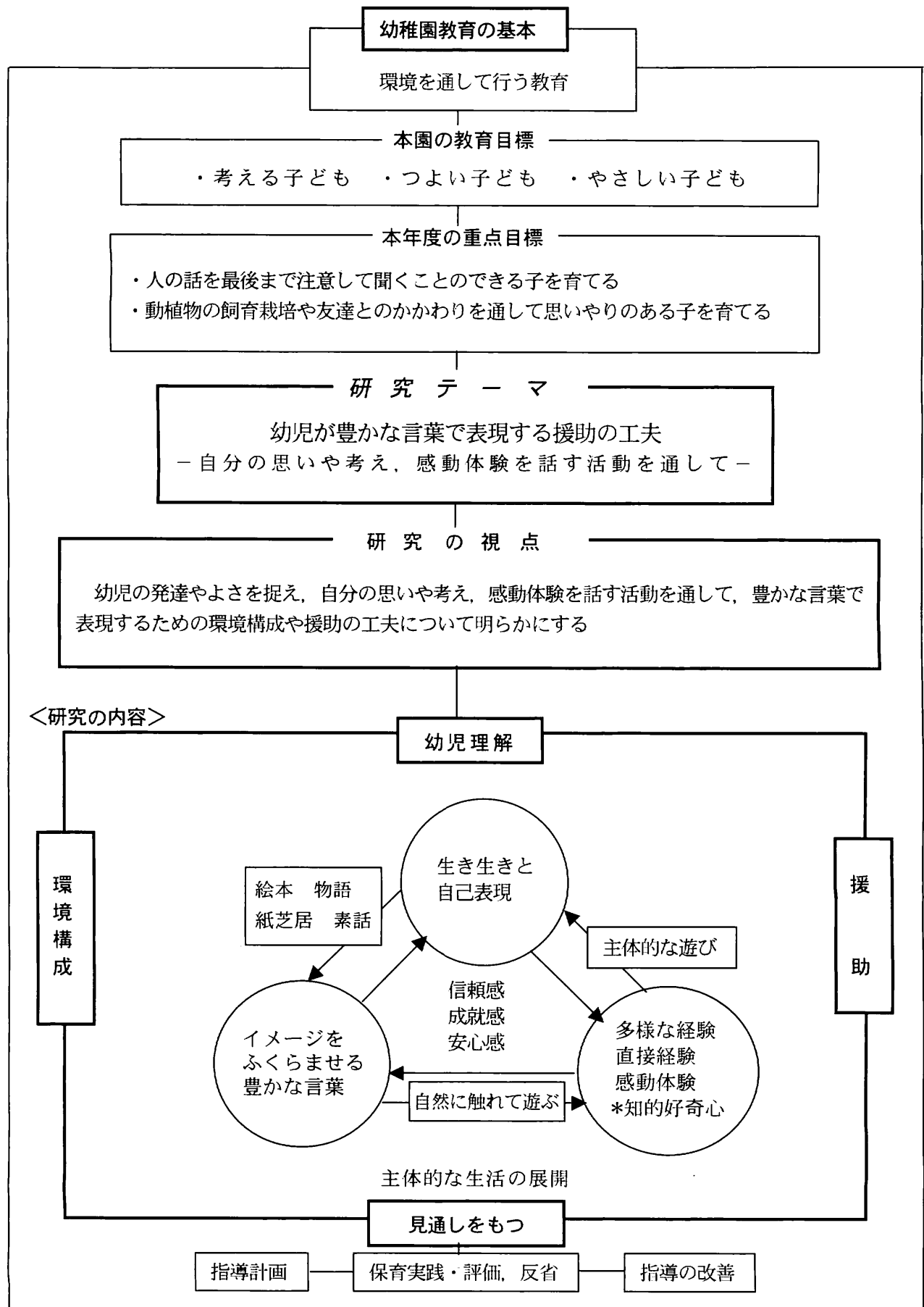
これまでの、保育実践を振り返ってみると、言葉を引き出そう、意思表示をはっきり出させようとすることに懸命になり、幼児の気持ちを理解するのが不十分であった。また、言葉遊びや絵本を読んでも、言葉の楽しさ、美しさを伝え、遊びの中で十分に生かされるよう工夫していなかったと、反省した。

そこで、幼児が豊かな言葉で表現できるようになるためには、生活の中で心を動かし、言葉で伝えたいような体験を豊富にもつことである。そして、自分の経験したことや考えたことを自分なりに話すこと、友達や教師の話を聞くこと等伝えあう喜びを味わうことが、言葉を使って表現する意欲や態度を育てる上で大切であると考え、本テーマを設定した。

II 研究の視点

幼児の発達やよさを捉え、自分の思いや考え、感動体験を話す活動を通して、豊かな言葉で表現するための環境構成や援助の工夫について明らかにする。

III 研究の全体構想図

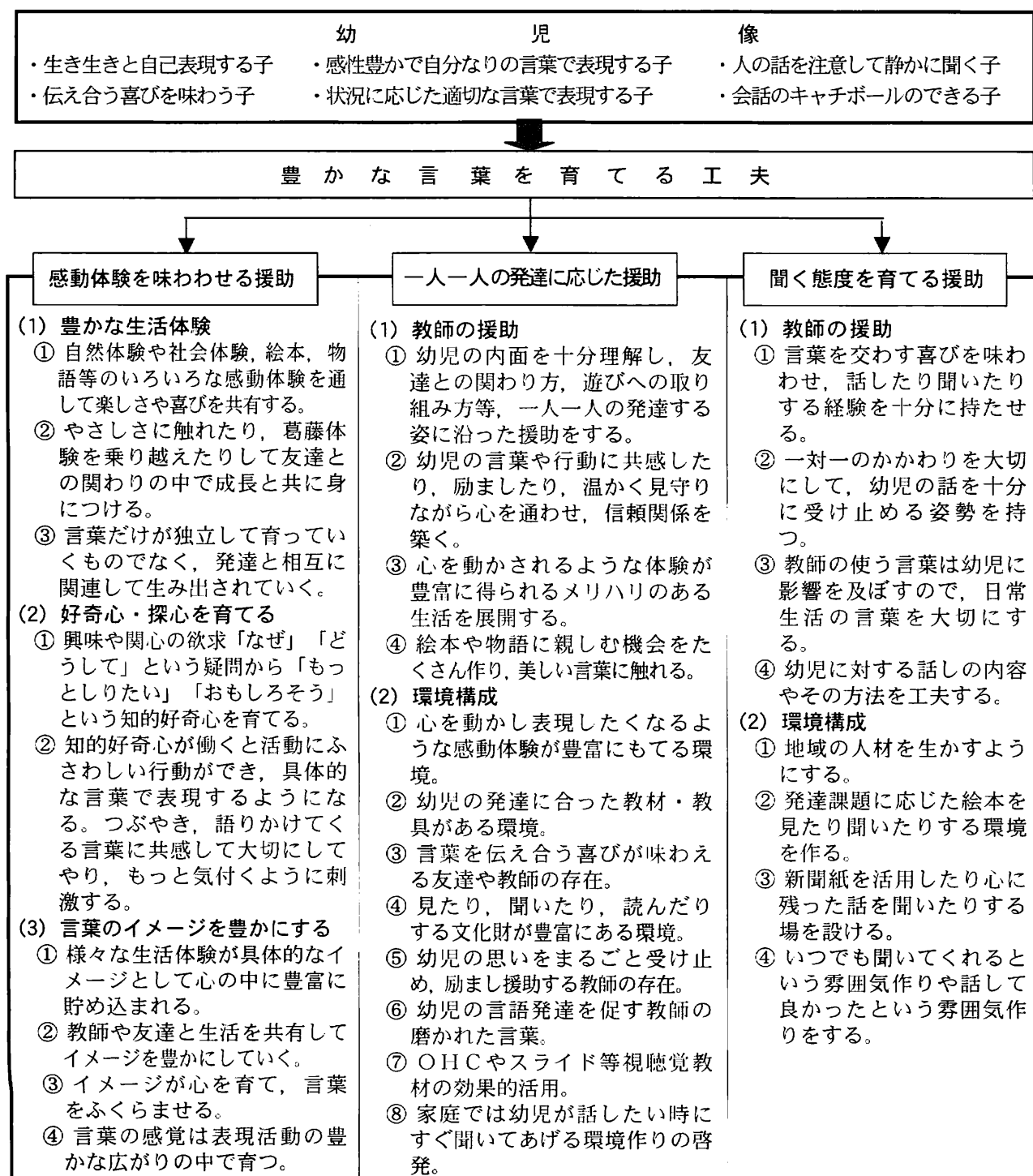


IV 研究内容

1 豊かな言葉と教師のかかわり

豊かな言葉で表現する力を養うためには、教師の役割が大切になる。幼児と教師の間に安心して話せるような雰囲気や信頼関係が築かれることによって、豊かな言葉を獲得していく。そのため、教師は、幼児の育ちや言葉の表現の背景にも目を向ける必要がある。言葉は、コミュニケーション機能だけでなく、絵本や物語等から感じる美しい響きや楽しいリズム等の音韻的な心地よさを伝える役割もある。

幼児は自分が五感を通して味わった豊かな体験を心の中に貯め込み、遊びの中で再現したり言葉で表現したりする。その時に、生き生きと自己表現できる場や素材に出会える援助が必要になる。また、教師は日常生活で言葉の良いモデルになり、美しい様々な言葉を意図的に使用しながら、幼児と共感することで豊かな言葉で表現する幼児が育つと考える。本来、言葉を育てるためには家庭や地域とも連携して指導することが重要であるが、今回は幼稚園内における効果的な指導に絞って、下図のような援助の工夫についてまとめた。



2 自分の思いや考え、感動体験を話す援助の工夫（具体的な場面で）

生活発表会に向けて	① 生活発表会では、幼児が自発的に行っているごっこ遊びや表現遊びの（人形劇、ペープサート、合奏、遊戯、劇遊び等）中に見られる幼児の動きを捉えて、学級全体で取り上げる。 ② 保護者や友達に見せたいという気持ちの高まりを生活発表会につなげる。 ③ 見たこと、聞いたことを感じたままに、その幼児なりに表現し、楽しさを味わえるように一学期から育てていく。 ④ みんなの中で表現する喜びを味わわせることで自分なりの表現を楽しむようにする。そして、伸び伸びと表現できる雰囲気や自由に行える環境で一人一人に表現する自信をもたせる。 ⑤ お面やペープサート、壁面、プログラムを友達同士で作し、工夫や発見が味わえるようにする。 ⑥ 幼児一人一人の頑張りを認め、友達の良さにも気付かせるような言葉かけをする。 ⑦ 手品は見えない場所で練習して成功へ導く。
朝の降園前のひととき	朝のひととき ① あいさつを交わし、スキンシップを取りながらさわやかな気持ちで迎える。 ② 一人一人の名前を呼んで表情を確認しながら、今日の生活の流れを知らせて、一日のスタートを気持ち良く楽しく始められるようにする。 降園前のひととき ① 楽しかったことや良かったこと、気づいたこと等を幼児と一緒に振り返り、発表させ、明日の生活に期待を持って降園させる。 ② 降園準備がそろそろ間、歌を歌ったり、なぞなぞやしりとりをする等言葉遊びを楽しむ。 ③ 一日に一度は絵本や紙芝居、素話を聞く時間を設け想像する楽しさを味わわせる。
日常生活を通して	遊具に触れて <跳び箱で遊ぶ> ① 自分達で準備できるように見える場所に置く。「〇段にしよう」と友達と相談しながら遊びの方向性を見い出している会話に共感する。 ② 遊びの中で自分の考えを話したり、友達の意見を聞いたりする姿を認め励ましながら、教師が側を離れても自己発揮できるようにする。 課題を見つけて主体的に取り組む <砂遊び> ① 自然現象（水は高いところから低いところに流れる）を試行錯誤しながら遊びの中で気付くので、幼児が夢中になって遊べる環境を整える。 ② 遊びに合わせて材料や用具（とい、スコップ、バケツ・・・）を用意し、適切な数や大きさ等一緒に考えていく。また、大切に上手に使えるように工夫する。 ③ 幼児は興味があることに繰り返し挑戦することから、それで、じっくりと遊べるような十分な時間を保証し、温かく見守る。 ④ 直接的具体的な経験をたくさん積み上げていき、自分で発見する喜びを味わわせながら知的な体験になれるようにする。 ⑤ 言葉の指導は、言葉だけを指導するのではなく、体験の中で育てることが大切である。

3 豊かな言葉を獲得する年間指導計画

教育課程に沿って指導してきたが、豊かな言葉に関する指導が不十分だったので具体的な見通しを持つために、豊かな言葉を獲得する視点を広げる年間指導計画を作成した。（表1）

作成にあたっては次のことに留意した。

- (1) 多様な遊びを通して、イメージの蓄積や広がり期待できる環境作りに心がけ、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うようにする。
- (2) 言葉の獲得には感動体験を豊かにし、連続的に指導する必要があるため、家庭との連携に努めるようにする。
- (3) 感動したことを伝え合う楽しさを味わえるように、発達段階に合わせた教材の工夫をする。

表1 豊かな言葉を獲得する年間指導計画

期		1学期（4月 ～ 7月）	2学期（9月 ～ 12月）	3学期（1月 ～ 3月）
教育課程との かかわり		・個々に生活が安定して、友達への関心が高まり ともに生活する楽しさを知って遊ぶ時期	・友達関係を深めながら、グループの中で自分の力を 十分発揮し共通の目的をもって生活に取り組む時期	・学級意識が深まり、学級で目的をもって幼稚園 生活を展開していく時期
幼児の姿 (言葉の領域)		・絵本や紙芝居等に興味を持ち喜んで聞こうとし 自分でも聞いてみている。 ・楽しかったことや困ったこと、生活に必要なこ とを話したり聞いたりしている。	・物語の長い話を興味を持って最後まで聞こうとし ている。 ・遊びを通して考えたこと、思ったことを相手にわ かるように話そうとしている。	・すぐに話したいことがあっても人が話している 時は、待つことができる。 ・話の内容を理解し、自分なりに表現しようとし ている。
ね ら い	聞 く	・教師や友達の話を聞く。 ・相手の顔を見て話を聞く ・絵本や物語等に親しむ。	・教師や友達の話を興味や関心を持って聞く。 ・人の話を最後まで静かに聞く。 ・大勢の友達と一緒に聞く。	・自分から進んで話を聞く。 ・話の内容を理解しながら聞く。
	話 す	・教師や友達に親しみを持って話す。 ・生活に必要な言葉がわかり使う。	・要求を言葉で表現したり、わからないことを自分 で聞く。 ・経験したことを相手にわかるように話そうとする。	・場に応じた適切な言葉があることを知る。 ・自分なりの表現でわかるように話す。
内 容		・自分の思ったこと考えたことを友達に伝えたり、 話を聞いたりしながら会話を楽しむ。 ・絵本に親しみをもち喜んで見たり、聞いたりする。	・人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す。 ・友達と一緒に相談したり、考えたりしながら遊び を進めていく。	・自分の思いや考えを友達と伝えあいながらイメ ージを広げ表現遊びを楽しむ。 ・いろいろな遊びを通して、文字や数字に興味や 関心をもつ。
教師の援助		・一人一人の発言を大切に受け入れ、個人差に応 じた話の内容を工夫し、話す機会の場を多く持 つようにする。 ・安定を図るため、絵本や紙芝居などの読み聞か せをしたり、手遊びをする。	・話を静かに注意して聞くための環境を工夫する。 ・友達とのかかわりの中で思いが話せ、相談しなが ら遊びが展開できるように必要に応じて援助して いく。 ・生活発表会では喜んで表現する態度を大切に、豊 かな言葉で表現する幼児を育てる。	・幼児の発想を大切に、イメージを豊かにする ような言葉かけや環境構成をしていく。 ・生き生きと自己表現できるように友達同士の話 し合いを大切に、力を合わせてやり遂げた充 実感や連帯感を体験させる。
環 境 構 成	絵 本	・もこもこ ・あのやまこえてどこいくの ・めだかがきたよ ・絵本ことばあそび 等	・なぞなぞえほん ・だんごどっこいしょ ・もりのなかのへなそうる ・にげだしたくつ 等	・おだんごパン ・おにのよめさん ・だいくとおにろく ・かぞえうたのほん 等
	言葉あそび	・自己紹介 ・集団遊び ・人形を使って遊ぶ ・手遊び ・ごっこ遊び ・仲間集め	・しりとり遊び ・劇遊び ・頭字遊び ・なぞなぞ	・伝言遊び ・絵描き歌 ・お話作り ・絵カード
家庭との連携		・子どもの目の高さになって、最後まで話を聞いて あげよう。 ・絵本の読み聞かせをすると絵本に親しみイメ ージが豊かになるよ。	・物語や童話等長い話にも興味をもっているの で意図的に読んであげよう。	・幼児は環境を通していろいろ経験してくる。 すてきな本に出会い、すてきな話を聞くことは 心を豊かにするよ。

V 保育実践

1 活動名

生活発表会に向けて

2 活動設定の理由

(1) 教材観

一学期はいろいろな遊びを楽しみ、その中で試したり工夫したりすることを楽しんだ。二学期の前半は、運動会を通して思っていることや考えていることを出し合って、友達と力いっぱい活動することの充実感を味わった。運動会では動的で一人一人の力を発揮する場面が多かったが、友達関係を深めながら自己の力を十分に発揮できる生活発表会を経験させ、友達と共通の目的に向かって遊びをすすめていき、いろいろな表現や活動を楽しんでほしいと願った。そこで、二学期の終わりに園生活の集大成として生活発表会を取り上げた。

本活動「生活発表会に向けて」では言葉で表現する場面が多い「指人形劇」「ペープサート」「ハンカチ遊び」「手品」を取り上げている。幼児が自分で製作し人形を動かすことは興味や関心があり、愛着の持てる遊びということから作る過程でも工夫や発見が味わえる。これらの出し物は、成功したときの「すごい」という歓声に喜びが大きく満足感が得られやすい。自分の思いを素直に表現する喜びを味わうと友達関係にゆとりが出て、表情が生き生きとし、表現力や語彙が増え、言葉に対する豊かな感覚が育てられる。

(2) 幼児観（幼児の主体性）

幼児はお客さんが来ることを喜び、自分の発表している姿を観てほしいと願い、張り切って活動する。中には舞台の上に立つことが好きで「気持ちがいいから」「よく顔が見えるから」と進んで舞台に立つ幼児がいる。認めてほしい感情と心地よい経験をしたからだと思う。

幼児の85%が生活発表会に意欲を示したが、男児の12%と女児の3%のが消極的であり、女児にやる気のあることがわかった。舞台に立ちたいと意欲的な幼児は「人形劇」「踊り」「オペレッタ」「歌」「楽器」「手話」・・・と目をキラキラさせ、繰り返し何度も練習している。そして、「Kちゃん何をやるの」と友達同士の相談が始まる。やりたくない幼児は「何をやるかわからん」「はずかしい」と普段からおとなしく主体的に遊んでない幼児にみられる。

自分の思いを素直に言葉で表現する幼児は10%とまだ少ない。しかし、運動会で得た充実感と自信から教師や友達に積極的に話しかけたり、学級全員の前で発表したりする幼児が増えつつある。

(3) 指導観（教師の意図性）

人形劇やペープサート、手品、ハンカチ遊びをすることによって、イメージや思いを広げ演じる幼児と観客になる幼児が楽しい雰囲気の中で自分自身を発揮させながら共有できることは、感動体験の一コマになり、生き生きと自己表現する態度を培う基になる。

人前に出て発表する経験が少ないため、友達やお客さんの前で演じたり発表することが苦手な幼児、感動体験を味わったことのない幼児には、その幼児なりに感じたことを素直に自分なりの言葉で表現することを大切にするように援助していきたい。また、やってみることで伝え合う楽しさがわかり、内面の動きを表出し、聞くこと話すことの楽しさや喜びを味わえるようになるので「演じてみたい」「お話してみたい」と意欲が出るような環境構成を幼児と共に工夫し、興味や欲求に応じたい。

生活発表会では、舞台の上で発表したいことを生活の中から発展させ、十分遊び、一人一人の幼児がイメージや思いを広げ思いきり自己表現できるようにしたい。また、友達のやっている良い場面を認め、お互いに刺激し合いながら喜んで表現する態度を大切に、豊かな言葉で表現する幼児を育てたい。

3 保育の目標

- ・ 目的に向かって友達と一緒に演じる楽しさや工夫して表現する楽しさを味わう。
- ・ 自分の思いや考えを具体的な言葉で話し、相手の考えも興味を持って聞こうとする。
- ・ 仲間と共に生活発表会を成し遂げたという満足感や連帯感を味わう。

4 指導計画（生活発表会に向けての取り組み）

	主なねらい	幼児の活動と環境構成	教師の援助	評価
11月20日(火)	- 生活発表会について思ったことや考えたことを話す。 - 自分の発表したい内容を考える。	生活発表会に向けての話し合いをする - どんな出し物 - イメージは - 何をやるかな ○○やったことあるよ	- 生活発表会があることを知らせ、意欲が出るような言葉かけをし、楽しく発表できるようにする。 - 教師が作ったペープサートを演じてみせ、自分たちもやりたいという雰囲気作りをする。	自分の思いや考えていたことを発表できたか。
26日(月)	- 発表したい内容について話し合うことで生活発表会に向けてのイメージを広げる。 - 教師や友達と一緒にどんなふうに表示するか考える。 - 楽しく進めるために必要なものや係があるかを考える。 - イメージを共有しながら必要なものを作る。	出し物について具体的に話し合う - 予想される出し物 個人又はグループ (ペープサート・人形劇・手品・ハンカチ遊び等) - どうやってやるのかな やってみよう 出し物のチームに分れて取り組む - おもしろいね ○○が足りない、作ってみよう	- どんな生活発表会にしたいかを話し合い、一人一人が話せるようにする。そして、その子なりの考えや思いを引き出し、受け止められるようにする。 - 自分たちの生活発表会にしたいという気持ちが出るようにアドバイスしたり、一緒に考える。 - 難しく思うように実現しない出し物については友達と相談する時間を設ける。 - 幼児の様子を見守りながら必要に応じて援助する。	- 生活発表会へのイメージを持つことができたか。 - 楽しんで発表するために必要な道具や役割を考えることができたか。
12月1日(土)	自分の思いや考えを友達に伝え発表グループ作りをする。	どんな係があるか話し合う 予想される係 (カセット係・司会等)	やりたい係ができるように配慮し、調整できない時は、お互いに相談し、考えさせる。	友達とイメージを共有することができたか。
3日(月)	生活発表会に向けて、自分の出し物や係がわかり意欲的に取り組む。	生活発表会に向けて話し合う - プログラムの順番 - 環境作り 自分の係を決める 各係に分れて取り組む	- 舞台は、どの演技もスムーズに発表できるように工夫し、自由に使えるようにする。 - 生活発表会ができるまでの過程は、幼児の思いや考えが反映されるようにその都度話し合いを持つようにする。	
	- みんなで楽しみ協力して進める。 - 生活発表会に向けての流れがわかり、自分の出番や係活動を意識して取り組む。 - 自分の役割を把握し、楽しく演じるようにする。	ペープサート・人形劇 手品 - もつと他のやり方もあるかな - どんなふうに表示するか考えたり演じたりする。 - 必要な小道具や壁面作りをする。 キップ係 カセット係 司会 看板係 - 役割分担してプログラムや看板を作る - アナウンスメントの内容を考え実際にやってみる。	- 発表に必要な小道具を作ることで、演じやすくなったり、イメージがわかりやすくなったりするので、必要に応じて作れる材料を用意して置く。 - 自分らしさを出しているところでは褒めてあげ、生き生きと自己表現できるようにする。また、アイディアが見られる場面では、友達の前で紹介し、認めてもらう。 - 幼児だけでは難しく困っている時は、ヒントを出して意欲が出るようにする。 - 各々のグループの出し物を見せ合ったり、個々の頑張りを認めたりできるような場を設け、みんなで楽しいすてきな生活発表会にしようという雰囲気作りにつなげていく。	- 生活発表会に向けて意欲的に取り組んでいるか。 - 友達と協力して遊びを進めているか。 必要な小道具の準備をしているか
7日(金)	楽しく演じた満足感から保護者にも見せたいと計画を段取りする。	生活発表会に向けて(本時) - お父さん、お母さんにも見せたいな ○○はすごいね - 最後まで頑張った	やりたいという意欲を認め、上手にできる、できないではなく、取り組んでいる過程を大切にする。(楽しく)	友達と同じ目的に向かって楽しく遊びを進めていたか。
10日(月)	友達の演技を楽しんで見る。	生活発表会リハーサル 今度は○○に挑戦しよう	一人一人の幼児の立場に合わせ、その役割や活動を認め、自信を持たせるような言葉かけをする。	
15日(土)	生き生きと自信を持って発表する。	生活発表会 (保護者を招待して)	- 保護者に見てもらったり、他の学級の友達と見せ合ったりして生き生きと演じたりする場や機会をつくる。 - 自信を持って発表できるように認め、励ましながら持っている力が十分発揮できるようにする。	- 友達の頑張りを認め自分も最後まで頑張れたか。 - 思いっきり演じ、生き生きと自己表現できたか。

5 検証保育 活動の計画

ね ら い	遊 び の 中 で 友 達 と 共 通 の 目 的 を も っ て か か わ り あ い な が ら 、 自 分 の 思 い を 話 し た り 、 相 手 の 考 え を 聞 い た り し な が ら 同 じ 方 向 に 遊 び を す す め よ う と す る。	内 容 ・自分なりにイメージをふくらませて演じることを楽しむ。 ・みんなで使う道具や遊具の片づけや使い方がわかり、大切にすること。 ・友達と同じ目的に向かって遊びをすすめる楽しさを味わう。 ・必要な役割を理解し、やり遂げる。
生活の流れ	活 動 の 展 開 ★ 教師の援助と環境構成	
9:40 ○片づけ ・トイレタイム ○話し合い	発表会をする前 ★「続きは、明日やろうね」と明日へ期待をもちながら片づけができるようにする。 ★片づけが終わったら遊戯室で走り出すので座って待つように声をかける。 ★寒くなっているのでトイレには前もって行かせ、気持ちをリラックスさせる。 ○話し合い ・発表するグループで集合する。 ・発表会ごっここの役割や進め方を確認する。 ・観る時の約束や演じる時、気をつける事を話し合う。 *大きな声で話す *静かに聞く *グループの仲間で準備や片づけをする ★発表会について落ち着いて話し合いができるようにする。 ★司会・音楽係・演じ手等役割がわかるように前もって話し合いをしておく。	発表会の流れ 幼 児 の 活 動 司会・・・1人 一人で堂々と進めている。 ①はじめてのことば 全員 緊張しているが声をそろえて「これから生活発表会を始めます」 ②ハンカチ遊び 8人 「うさぎさんのごと」 ○○を作ります」各自ハンカチで好きな形を作ってから、音楽に合わせてハンカチで遊ぶ。 ③ペープサート 6人 「ゴーヤマン」 踊りの好きなゴーヤマンが東京のハニーちゃんに会いに行くストーリーを考えた。 踊った後は東京にレッツゴー。 ④マジック ・うち 4人・くれよん3人 ・へび 2人・ペットボトル2人 一人で挑戦・グループで挑戦 一生懸命、しかけがバレないように工夫した。 ⑤人形劇 7人 「大きな 大きな いも」 幼稚園のイモが大きく成長した。 みんなで「うんとこしょ、うんとこしょ」人形と観客が一緒になった。 ⑥楽器 全員 「あわてんぼうのサンタクロース」 5番まで自分のパートをまちがえないように曲をしっかりと聞いていた。 ⑦おわりのことば 全員 緊張感もとけてリラックスした声で「終わります」。 教師の読みとり 初めての挑戦だが自分で言葉を考えて教師を頼らないようにしている。 短い言葉ではあるが、声をそろえて大きな声で言えたので気持ちよく始められそう。 緊張して何をしようとしたのか忘れてしまったようで、全員が同じ形になっている。 ・手作りの人形は製作遊びでのアイディアと工夫が生かされている。 ・これまでの経験や観劇がきっかけでストーリーも自作し、ペープサートに興味が増している。 ・一人で挑戦するのは、初めてなので緊張感が違う。 ・マジックは見ていると楽しいが、やってみると難しいことに気づいている。 ・大きなかぶの話は、よく知っているので自分達でアレンジして、更に楽しもうとしているの。 ・大きな声でセリフが言えて自信がついてきている。 分担当は難しいけどみんなの音がそろるとすてきだと感じている。 長時間だったが最後まで頑張る集中力や持続力がついている。 ・教育的意図 ・自己発揮 ・連帯感・期待 ・表現意欲・自信 ・考え工夫する楽しさ・創造 ・責任・主体性の発揮 ・つくり出す楽しさ・創造 ・役割の責任と誇り ・満足感・連帯感 ★準備は、友達同士協力してできるように見守り促す。 ★言葉がうまく出せない時や声が小さい時は、具体的な言葉を示唆して援助する。 写真② ペットボトル手品の様子 ★自分の出番や役割をしっかり確認し、友達と協力して発表会が楽しくできるように見守ったり、手伝ったりする。 ★一人一人の表現を大切に受け止め、認めたり励ましたりする。
10:00 ○発表会 ①はじめのあいさつ ②ハンカチ遊び ③ペープサート ④マジック ⑤人形劇 ⑥楽器演奏 ⑦おわりのことば ○話し合い 11:30	準備するもの 脱着スペース・テープ 人形劇の台・人形 ペープサート・楽器 ハンカチ・マジック用品 遊戯室 小道具 小道具 舞台 発表会をした後 ○話し合い おもしろかったこと、よかったこと等話す。 ・8人発表する ★楽しかったことやよかったこと等幼児と一緒に振り返り来週の見学会へつなげる。 ★感想や意見が少ない場合は、教師が友達同士の協力や工夫、大きな声で発表していた場面等を認めることで次へ意欲的に取り組めるようにする。 ★発表者の人数や内容は、幼児の意欲や姿から配慮する。 写真① 一人一人の発表の様子	写真③ 楽器演奏の様子 ★自分らしさを出している場面やアイディアが見られる場面を取り上げて自身を持たせ、楽しんで演じられるようにする。 ★おしゃべりやいたずらが見られ集中しない場合は手遊びや休息等を入れながら最後まで発表会が楽しめるようにする。

6 保育の省察

- (1) 言葉で表現する場面の多い遊びを経験することで自分の思いを素直に表現する喜びを味わった。そして、友達関係にゆとりが出て表情が生き生きとし、表現力や語彙が増え、言葉に対する豊かな感覚が育てられた。
- (2) 初めての舞台発表だったので緊張していたが、発表したい、見てほしいという思いから長時間頑張った。やったという満足感とみんな学級の仲間という連帯感を味わい、自信をつけた。
- (3) 自信がついた手品の男児数人は明るくなり、自分から話しかけ、全体の間での話し合いでも発表するようになった。
- (4) 発表会までの取り組みにおいて、幼児が発想したことは、小さなことも大切にしながら主体的に取り組めるようにした。その結果、一人一人が意欲的に参加しプログラムの内容を決めたり選択をした。
- (5) 役割が決まると自分達で道具や用具を精選することによって、準備をしたり進んで後片付けをしたりする姿が見られた。
- (6) 人形劇の舞台をしっかりと固定したらふらつかない安心感からなのか、人形にあまり興味を示さなかった幼児も友達と一緒に遊んでいた。人形劇を演じたいくなるような舞台の環境構成が必要であることがわかった。
- (7) 友達と共通の目的（生活発表会）に向かって遊びを進めたことで学級の仲間意識が高まった。

7 幼児の変容

2学期始め（★9月）の幼児の言葉の実態と発表会終えた後（☆1月）の変容を、表2と3に示し幼児理解の参考にした。

(1) 変容の多かった幼児の考察

抽出児A男は、生活発表会に向けて司会をやったときに「大きな声でよく聞こえる、上手だね」と友達から認められたことが自信となり、感じたことを素直に言葉や体で表現し、自己発揮をした。今後は、このことを更にのばし、いろいろな発表をすることにより感じたことや考えたことを言葉で表現できるように見守って

いきたい。また、聞く態度については、最後まで注意して聞けるように援助して

いきたい。
B男は、ゴーヤーマンの絵本からペープサートを作った。友達とストーリーを考えて、せりふを言い

ながら人形を操作することを楽しみ、表情に生き生きさが出てきた。今後はイメージが豊かになるように、感動体験が味わえる援助をして言葉に対する感覚を養い、状況に応じて適切な言葉を使えるようにしていきたい。

C男は楽器遊びや指人形劇を友達と演じるようになってから、友達の思いや気持ちを感じ取りながら行動できるようになった。学級全体の集まりでも話を聞こうとする意識が出てきたので、今後も、温かく見守っていきたい。

K子は、気の合う友達とペープサートやハンカチ遊びを楽しんでお互いの考えを出し合う姿がみられた。今後は、友達と遊びを進める中でひとつのことをやり遂げる充実感を味わわせ、生き生きと自己表現できるように援助したい。また、聞く態度をのばし友達の良さにも気づけるようにしたい。

(2) 変容の少なかった幼児の考察

変容の少ない女児の原因は教師の幼児理解である。一学期、女児の方に元気があり、よく話していたので男児の表現力を

表2 変容の多かった幼児

★★★ 良い		★★ 普通		★ 努力が必要		変容のあった観点		
氏名	表情の生き生きさ		豊かな語彙		発表力		聞く態度	
A男	★★★	☆☆☆	★★	☆☆☆	★★	☆☆☆	★★	☆☆
B男	★★	☆☆☆	★★	☆☆	★★	☆☆	★★	☆☆
C男	★★★	☆☆☆	★★	☆☆	★★	☆☆	★★	☆☆
K子	★★	☆☆☆	★★	☆☆☆	★★	☆☆☆	★★	☆☆

表3 変容の少ない幼児

★★★ 良い		★★ 普通		★ 努力が必要		変容のあった観点		
氏名	表情の生き生きさ		豊かな語彙		発表力		聞く態度	
S子	★★★	☆☆☆	★★★	☆☆☆	★★★	☆☆☆	★★	☆☆
T子	★★	☆☆	★★	☆☆	★★	☆☆☆	★★	☆☆
U子	★★★	☆☆☆	★★★	☆☆☆	★★	☆☆	★	☆☆

生き生きさせたいと願い援助してきた。しかし、女兒が全体的に良い傾向にあるが故に、一人一人の心の内面を読みとり、ていねいに受け止めていなかったと考える。幼児期は、その場の適切な言葉を獲得していなかったり、見つからずうまく表現できなかったりすることがよくある。このようなとき、幼児は体を使って語る言葉で表現することがある。こうした幼児の繊細な動きに共感し、応答していけるようにしたい。

(3) 全体の変容

全体の変容をみると男児の方が多く変容している。入園当初の男児はおとなしく、教師に話しかけられてから話し始め、友達同士遊んでいても会話が短く、自分の思いをはっきり伝えていなかった。しかし、運動会や生活発表会、その他日常生活の中で積極的に活動し、様々な体験を通して言葉を習得した。それから、教師が幼児の表現しようとする意欲や態度を育てるために、言葉で伝え合う喜びや話す楽しさを実感し共感する温かい生活環境を工夫したことが言葉の成長につながった。

(4) 観点別の考察

- ① 「表情の生き生きさ」において、心を動かされる生活体験を通して楽しさや充実感を味わい、6割の幼児が良い方に変容した。今後は、明るく伸び伸びしてきた面を更にのばし、生き生きと自分の思いを十分表現できる幼児に育てたい。
- ② 「豊かな語彙」については、友達同士遊んでいる時の会話が多くなった。また、トラブルが起きたときに話し合いで解決するようになり、2割の幼児が良い方に変容した。言葉は独立して育っていくものではなく、発達と相互に関連して生み出されていくので、今後も家庭との連携を図りながら語彙を豊かにしていきたい。
- ③ 「発表力」については、生活発表会后、自信をつけた幼児は友達に認められる心地よさ、自分の考えを伝える喜びを味わう等があつて、4割の幼児が発表力において良い方に変容した。今後は、更に発表したくなるような場や雰囲気作りを工夫して自己発揮できるようにしたい。
- ④ 「聞く態度」については、絵本や物語を聞いたり、教師の話や友達の要求を聞く等様々な体験を重ねていくうちに、6割の幼児が最後まで静かに聞けるように変容した。話の内容に注意して聞くようとする意欲や態度を育てることは、豊かな言葉を育てる基礎になるので今後も特に大切にしていきたい。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成 果

- (1) 幼児の発達やよさを捉え、感動体験を多く持たすことによって豊かな言葉で表現する幼児が増えた。
- (2) 自分の思いや考えを話したり、相手の話を聞いてあげたりするようになって、友達関係が深まり、問題解決も幼児なりにできるようになった。
- (3) イメージが豊かになると言葉も豊かになることがわかった。教師や友達、身近な人とかかわることで感動体験を味わい、イメージが豊かになり、幼児の言葉が豊かになることから環境の再構成の大切さを理解した。
- (4) 教師自身が豊かな言葉を持っていることが大切であることを学んだ。そのため、長期的見通しの中で言葉を精選することの必要性を学んだ。

2 今後の課題

- (1) 幼児一人一人が、豊かな言葉で思いや考えを話すための見通しをもった環境構成の工夫。
- (2) 幼児の感動体験を豊かにするための家庭・地域との連携。
- (3) 豊かな言葉を獲得する年間指導計画の活用と改善充実。

<主な参考文献>

文部省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	1999年
小田豊・仲長美津子	『新幼稚園教育要領の解説』	第一法規	1999年
村井潤一	『言葉』	ひかりのくに	1990年
吉村真理子	『保育者の「出番」を考える』	フレーベル館	2001年